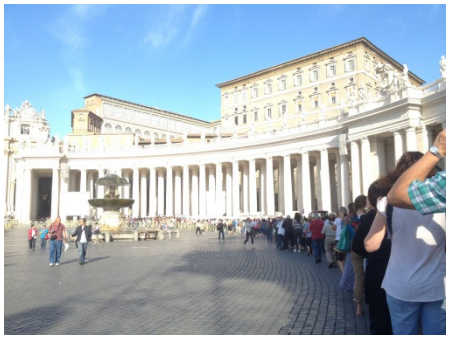
９／２２　涙涙と笑顔の日

　朝早くから最小の国家ヴァチカン市国へ。地下鉄を降りるともうすでにヴァチカンへの列ができており、速足で向かいます！



入口で手荷物検査の列に並び、長い長い階段をのぼっていくと・・・・

ヴァチカン市国を一望！国際的な承認を受けている独立国家としては面積・人口ともに世界最小で、ローマ教皇の居住地。約８００人の聖職者が住む国でもあり、世界各国から巡礼者が訪れる聖地でもあります。

下に降りてサンピエトロ大聖堂左手にあるヴァチカン郵便局からは日本にはがきを出せます！局内で、はがき・切手を購入して、その場で書いて可愛いポストに投函！私は家族宛に。いつ届くのかな～

　続いて、毎週月～土の朝から昼まで開かれているカンポ・ディ・フィオーリ市場へ。今まで見てきた市場とは違って街の中心にあるこの市場は、周りがレストランで囲まれており、観光客が多く、にぎわう場所でした。

初めて見たサラダ売り(笑)　しおれないのでしょうか・・・？

続いて地元民が多く集まるというナヴォーナ広場へ。美しい噴水のまわりには、絵描きの人が沢山。

その後ショッピングをすることに。小さなお店が沢山ならんでいてお土産選びにはもってこいの場所です。そこで私はとっても可愛いお店を発見！全部木でできているんですが、このデザインがなんともツボ・・・・(*^^*)　可愛すぎて全部手に取ってみたり・・・

お土産にと、夢中で選んで会計に向かいます。

「全部で何ユーロかな～」なんて考えながら財布を出そうとバックに手をやります。

？？？？？？？？？？

バックが開いてる？？？？？？？

血の気がひいていくとは、こういうことなんですね。

　何も感じない間に、閉めていたはずのバックのチャックが開いて、財布だけが消えていました。

　とりあえず商品をもとにもどして店の外に出ます。
　まず何をすべき？だれに言うべき？どうしようどうしよう？

　そんな思いが堂々巡りして何もできずにいると、敷田さんが「まずは警察署に行くべき」と助言してくれました。

街に戻ってパトカーに乗った警察官に事情を言うと、警察署に行けと冷たく言われ・・・敷田さんと別れて一人、警察署を探します。

親切そうなおばあちゃんに出会ってイタリア語しか通じなかったものの、なんとかジェスチャーでスられたことを説明。私についてきなさいと腕を引かれ、警察署へ。これまた警察官も英語が通じず、おばあちゃんが状況を説明してくれました。

おばあちゃんにお礼を言って別れ、被害報告書を書きます。だれか連絡できる人はいるか? というようなことを聞かれ、泊まっているホステルの電話番号を伝えました。

それから１５分ほどして、ホステルの管理人サルバトーレが車で迎えに来てくれました。現れた瞬間、サルバトーレは「Don't worry It's ok」と繰り返して抱きしめてくれました。安心して堪えていた涙が一気に流れます。

ホステルに戻ると、ロビーには全スタッフが集まっていました。そして彼と同じように私を励ましてくれ、また涙。

「まず私は何をすればいい？カードを止める？家族に連絡？」

と聞くと、

「パスタを食べよう」とみんなが言います。

それどころじゃないよ・・・と思いつつも言われるがままに座ると、ほどなくして、出来立てのパスタが運ばれてきました。一口食べると、そのおいしさとあたたかさにまたまた涙。
ボロボロ泣きながら食べる私に、「しょっぱい味になっちゃうよ」「ジュースはいる？」「チーズも食べる？」とみんなが口々に声をかけて、笑わせてくれます。食べ終えると大分落ち着いてしっかり会話ができるようになりました。

その後、ホテルの電話を借りて、カードを止めたり、家族に連絡しました。もし、彼らがいなければ、私はパニックになって何もできなかったに違いありません。

無事やるべきことを終えると、スタッフから少し休むように言われ、夕方まで眠りました。目覚めると、スタッフが散歩に誘ってくれました。美しくライトアップされたローマの町並みを眺めて、今日の出来事について話しました。

「人生にはバランスがある。悪いことが起きて悲しい時もあれば、良いことが起きてハッピーな時もある。どちらかがずっと続くことはない。今日、悲しいことがあったけど、次はきっとハッピーがやってくるよ。」と言ってくれました。

ホステルに帰ると、すっごくいい匂い・・・・キッチンに呼ばれて行ってみると

今日はＦＵＺＵＫＩの為のパーティーだ！と言ってスタッフが、チキンカレーを振る舞ってくれました。この最高においしいチキンカレーや、止まらないみんなの笑い話にいつの間にか悲しい気持ちや不安は消えていきました。

沢山涙した一日でしたが、人のあたたかさに触れ、沢山笑った一日でもありました。